

特別寄稿

災害時における IBD 患者への対応： ストーマ患者への対応を中心に

内野 基* 岡山カナ子**
池内 浩基*

はじめに

近年、地震、豪雨など各地で記録的な災害が発生しています。1995 年に発生した阪神・淡路大震災以後、災害に対する関心が高まり、さまざまな疾患で対策が必要と認識されています。高齢者や障害者など災害弱者への迅速な対応がまず重要ですが、時間の経過とともに透析、在宅酸素療法、インスリン治療を要する患者などが医療的な災害弱者として問題となってきます。炎症性腸疾患 (IBD) では在宅経静脈栄養 (HPN) 患者、経腸栄養患者、ストーマを有する患者 (オストメイト) などがこれらに相当し、災害時支援が必要となることが想定されます。ここではこうした IBD 患者が被災した際にできる情報提供、今後の課題について述べます。

1 オストメイトへの対応

2011 年の東日本大震災をきっかけに組織的に対策が講じられています。一般社団法人日本創傷・オストミー・失禁管理学会^{参考 URL 1)}、公益社団法人日本オストミー協会^{参考 URL 2)}や日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会^{参考 URL 3)}が災害時対応ガイドブック、マニュアル、リーフレットを作成し、各々の

ホームページに記載しています。またストーマ用品セーフティーネット連絡会 (Ostomy Appliance Safety net group ; OAS) と称する日本国内のストーマ用品メーカー〔アルケア株式会社、コロプラス株式会社、コンバテック ジャパン株式会社、ソルブ株式会社、株式会社ホリスター、村中医療器株式会社 (2017 年 4 月 1 日現在)〕によって結成された団体により、災害発生時にストーマ用品を確保、無料提供する対応が行われるよう整備されています。また学会に随時災害情報が伝達され、災害専用掲示板での情報交換、共有が可能となったり、必要時には専任看護師 (Wound Ostomy Continence Nurse ; WOCN) の派遣が行われたりする仕組みが出来上がっています。WOCN はストーマだけでなく災害時にとくに悪化する寝たきり患者の褥瘡対応なども行っています。

しかし支援体制はあるものの、患者は災害発生からこれら支援を受けるまでの期間を乗り切る必要があります。そこで医師や WOCN は日頃から患者への指導や準備をしておくことが必要となります。

災害の発生は予測できないため、普段から災害時に備え、患者自身に非常用の装具交換セットを 2 週間～1 カ月分程度用意しておく

*兵庫医科大学炎症性腸疾患学講座外科部門 **兵庫医科大学病院看護部 (〒 663-8501 兵庫県西宮市武庫川町 1-1)

ように指導します。具体的内容は各団体のマニュアルを参考にさせていただきたいのですが、次に挙げるようなストーマ装具、ケア用品をまとめてすぐに持ち出せるようにしておきます。

① あらかじめストーマの大きさに合わせてカットしておいた面板(災害に関わらず緊急用として普段から準備しておくとう有用)、面板を調節するためのストーマサイズの型紙やはさみ

② ウェットティッシュや洗い流し不要の洗浄剤

③ 破棄するためのビニール袋

われわれ医師、WOCN は退院時に必ず災害対策の説明をすることが必要で、ストーマ外来でも災害対策としてあらかじめ物品を準備しておく必要があります。

2 在宅経静脈栄養(HPN)患者への対応

筆者の知るかぎりでは HPN 患者への系統だった支援は確立されていないのが現状です。災害時には IBD 患者のなかでもっとも弱者となることが想定されます。短時間でも輸液がなければ生命危機に至る可能性はありますし、カテーテルの汚染による敗血症も致命的です。急を要する場合には救急要請が必要です。2005 年以降は厚生労働省により発足した災害派遣医療チーム(Disaster Medical Assistance Team ; DMAT)や、その後の支援体制に日本医師会が統括する日本医師会災害医療チーム(Japan Medical Association Team ; JMAT)があり災害への対応が期待できますが、輸液の内容は個人で異なるため自己管理しておくことも重要です。現在、市町

村によっては独自に患者の必要物品などを把握して災害に備えようと準備しているところもありますが、まだまだ一般的ではありません。個人情報の取り扱いという問題はありませんが、行われている治療内容をいくつかの診療機関で把握しておき、災害時に輸液製剤、投与経路の清潔保持に関わる器材の供給が迅速かつ円滑になされるシステムの構築も今後の課題です。

おわりに

疾患の種類に限らず災害時には想定外の障害が起こることを意識し、メディカルスタッフ、患者自身の双方が準備をして備えておくことが大切でしょう。

参考 URL(2018 年 7 月現在)

- 1) 一般社団法人 日本創傷・オストミー・失禁管理学会
<http://jwocm.org/>
- 2) 公益社団法人 日本オストミー協会
<http://www.joa-net.org/>
- 3) 日本ストーマ・排泄リハビリテーション学会
<http://www.jsscr.jp/>

Key words : 炎症性腸疾患, 災害対策, 災害医療, オストメイト

Disaster Relief for Patients with Ostomy or Home Parenteral Nutrition in Inflammatory Bowel Disease

Motoi Uchino*, Kanako Okayama**
and Hiroki Ikeuchi*

*Department of Inflammatory Bowel Disease, Division of Surgery, Hyogo College of Medicine, 1-1 Mukogawacho, Nishinomiya, Hyogo 663-8501, Japan

**Department of Nursing, Hyogo College of Medicine Hospital